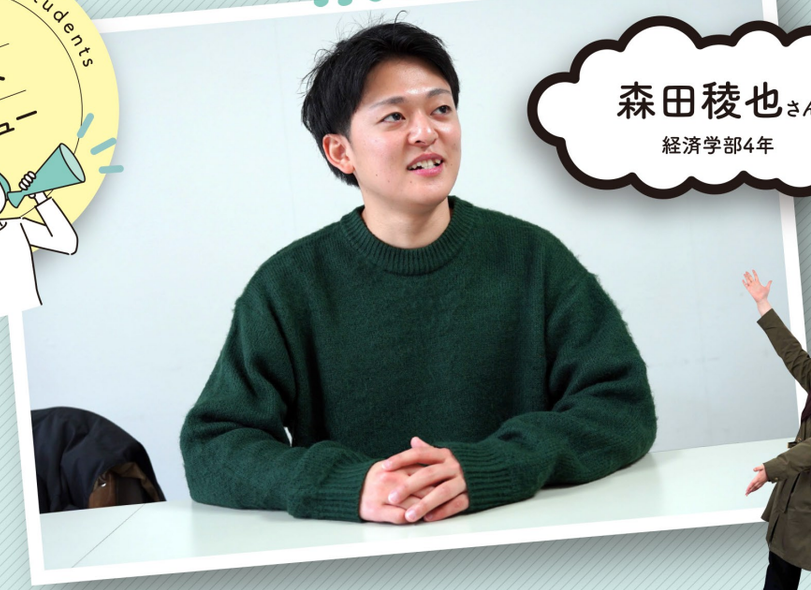
Interview with 4th grade students

在学生が
4年生へ
インタビュー

FACULTY OF ECONOMICS

MORITA Ryoya



森田稜也さん
経済学部4年

インタビュアー
田中藍子さん
（環境科学部2年）

大学は挑戦できる場所
自治体とともに学生のキャリア支援

キャリア支援団体「Lensa（レンサ）」の代表を務め、就活イベントの企画・運営を行ってきた森田稜也さんにインタビューを行いました。

田中／「Lensa」はどのような団体ですか。

森田／長崎大学経済学部の学生で構成されるキャリア支援団体です。就活イベントの企画・運営やSNSでの発信、就活生への個別面談を通して就活を支援しています。また、長崎県庁や長崎市役所等の自治体との合同企画も積極的に展開しています。

田中／「Lensa」の代表として活動をする中で、特にどのようなことが大変でしたか。

森田／自治体や他大学の学生団体など、特に学外の方と関わるイベントは規模も大きいため、より責任を感じるものでした。チームを引っ張ったり最終的な決定を下したりしなければならず、まず自分が動かなければ始まらないという状況は予想以上に苦労しました。

田中／そのような責任ある役割を引き受けるにあたって不安はなかったのでしょうか。

森田／もちろん最初は不安でいっぱいでした。ですが、これまで代表という立場を経験したことがなかった自分にとって、成長できるチャンスだとも思いました。それに大学生はまだ失敗できる立場ですしね。その間に、いろいろなことに挑戦をして経験を積んでおいた方がよいかなと思ったのです。

田中／森田さんは県外のご出身ですが、卒業を前に長崎や長崎大学についてどのように感じていますか。

森田／実は、私は長崎大学が第一志望ではなく、最初はネガティブな感情もありました。しかし、長崎の人はとても優しいし、自治体の方々も我々学生に対して、一緒にやっていこうと対等に接してくれました。「Lensa」の活動の他にも、アルバイトやゼミ活動、プログラミングスクールや趣味の旅行も含めて、様々なことに挑戦する機会を得ました。幅広く学び、分かることが増えていく中で、いろんな人の価値観を受け入れるようになれたと思います。結果として今は、長崎大学に来て良かったと思っています。そして、そのような経験の中で、自分がやりたいことは人と関わる仕事だということも見えてきたのです。

田中／最後に、森田さんのこれからの目標を教えてください。

森田／まずは入社する人材サービス業界の会社で「顧客にとってなくてはならない人材」になるために努力していきたいです。自分は活躍できるのか不安でいっぱいですが、大学生活で経験したことに自信を持って、仕事をこなしていきたいです。

Lensaのイベント後の集合写真

ホテルニュー長崎でのイベント開催の様子

FACULTY OF EDUCATION

TASAKI Chiharu

田崎千春さん
教育学部4年

インタビュアー
三原凜奈さん
（環境科学部3年）

流されたいから流されてみる
その先にやりたいことが

皆が自分らしく、自分を愛して生きてほしい。若者が生きやすい社会の実現を目指して、対話・体験型のワークショップを行っている「あいらしくプロジェクト」。そんなプロジェクトの発起人である田崎千春さんにインタビューを行いました。

三原／「あいらしくプロジェクト」とはどのような団体でしょうか。

田崎／私が大学2年生の時に参加した長崎市の事業「ながさき若者会議」の中で、教育系に興味があったメンバーと意気投合して結成しました。

「あいらしくプロジェクト」のワークショップは、参加者はまず「何に興味があるか」など自分を見つめ直す複数の質問に回答。次にグループ内で発表・共有し、最後に発表を聞いた人たちがその人の「いいとこカード」を作るという内容です。これまで県内の中学校や施設など約10カ所で実施してきました。

三原／活動を行う中で印象的だったことはありますか。

田崎／自分を見つめ直す過程で泣き出した参加者がいました。私も少し慌てたのですが、周囲の暖かい声掛けで、気持ちを素直に出せる空気が自然に生まれていたのです。結果として泣き出した参加者も、過去の自分を前向きに捉え直すことが出来たようです。この様子を見て、このプロジェクトの価値を実感できました。

三原／大学生活を振り返って成長した点を教えてください。

田崎／自分の気持ちに正直に、積極的にやりたいことができるようになりました。また、自分が積極的に動いていると、自然と周りに動いている人たちが集まってきます。自分がやりたいことを口にしていると、周りの人の人脈で他の人とつないでもらったり、「一緒に行こう」と声をかけてもらったりして自分の行きたい方向に連れて行ってもらえます。誰かに何か言われたから流されるのではなく、自分が流されてみたいから流されてみるという感覚です。その結果、自分のやりたいことの形が見えてきて、自分の気持ちに正直に何でもやってみようという気持ちが生まれたと感じています。

三原／最後に田崎さんの今後の目標を教えてください。

田崎／これまで平凡に生きてきた自分でも、挑戦して様々な活動をすることができたので、周囲の人が私の姿を見て「自分もやってみよう!」と思い挑戦できるような、良い刺激や影響を与えられる存在でありたいと思います。そのためにも、健康に過ごし、その場を楽しむ心を忘れずにいたいです。

長崎県内の中学校でのワークショップの様子

長崎県内の高校でのワークショップの様子